広島芸術学会活動報告

一九九八年七月〜一九九九年六月

米門公子

▼平成十年七月七日(火)

会報第四十八号を発行。掲載記事は、巻頭言に高石勝氏の「コンセプト」と広島芸術学会第十二回総会・大会の案内と発表要旨など。

▼平成十年七月三十一日(金)・八月一日(土)・二日(日)

第十二回総会・大会を広島県立美術館講堂で開催した。初日の七月三十一日は金曜日のため、夕方五時からの総会となった。金田晉代表委員が挨拶の後、寺本泰輔委員を議長に任命した。樋口聡委員が平成九年度の事業報告、大橋啓一事務局長が決算報告、監査委員の倉橋清方氏が監査報告をし、承認された。続いて、安西信一委員が平成十年度の事業計画、大橋啓一事務局長が予算案を発表し、そのまま承認された。

十八時から大会開始。三つの研究発表が行われた。①広島大学のウルシュラ・スティチェック氏による「ボロフスキと原民喜」②大阪大学大学院の石原みどり氏による「K・フィードラーの〈感性的認識論〉の可能性」③比治山大学短期大学部の久保田貴美子氏による「韓国最初の女性西洋画家・羅恵錫について」

二日目の午前中にも三つの研究発表が行われた。①韓国・嶺南大学大学院の崔朱延氏による「ウオルター・ペイターにおける『芸術としての人生』」②大阪大学の渡辺浩司氏による「理想的悲劇 ―アリストテレスの『詩学』の第十三章と第十四章より―」③京都工芸繊維大学の並木誠士氏による「近世初期風俗画の源流としての酒飯論絵巻」

午後の最初には、韓国の舞踊家・金暎珠氏と当学会のバイオリニスト・中畝みのり氏による「音と舞の共演」と題する公演が行われた。

続いては「遊びの美意識」というテーマの日韓共同シンポジウム。司会／金田晉氏(広島大学)、基調報告／浜下昌宏氏(神戸女学院大

学）パネリスト／兪俊英氏（韓国・梨花女子大学）、三浦信一郎氏（帝塚山学院大学）、樋口聡氏（広島大学）、伊東敏光氏（広島市立大学）。通訳／閔周植氏（韓国・嶺南大学）

最終日は福山市のふくやま美術館で開催。広島大学の小島基氏の「芸術文化交流の観点からみた朝鮮通信使」、アートディーラーの金泰樹氏による「二十一世紀の日韓プリントアートの交流について」と題する講演が行われた。例会後、ふくやま美術館と歴史博物館を見学した。参加は一般からの参加も多く、正確には不明だが、百名以上。

▼平成十年八月十七日（月）

会報第四十九号を発行。掲載記事は巻頭言に吉井章氏の「ドイツの諸相」と第四十四回例会報告「蘭島閣美術館・松濤園の鑑賞」（報告者・石原名穂子）

▼平成十年九月五日（土）

広島県立美術館講堂で第四十五回例会を開催。当学会第二回芸術展として、作家会員三十名に極小作品・極大作品を出品してもらい、同美術館の県民ギャラリーで比較展示を行った。同時にすぐそばの講堂で美学者や作家が、「作品の大きさとは何なのか」を語るシンポジウムを開いた。司会は入野忠芳氏（絵画）、パネリストは金田晉氏（美学）、高木茂登氏（彫刻）、村中保彦氏（工芸）。参加は約九十名。例会後に、館内のレストランで懇親会を持った。

▼平成十年十一月二十一日（土）

会報第五十号を発行。掲載記事は第五十号を記念して代表委員の金田晉氏の「人の顔が見える学会へ」と題した巻頭言、第十二回大会発表要旨（報告者・研究発表①／川口隆行、研究発表②／安西信一、研究発表③／管村亨、研究発表④／大石和久）、研究発表⑤／蔵本典之、研究発表⑥／松村薫子、公演／須崎朝子、共同シンポジウム／金田晉）、第四十五回例会報告「シンポジウム・極小と極大―作家が語る制作の現場」（報告者・森園敦）など。

▼平成十年十二月十三日（土）

第四十六回例会を広島県立美術館講堂で開催。広島大学大学院生でバレリーナでもある播野尚子氏が「バレエにおける演出について」、広島貯金事務センターで働きながら記号論などを研究している大山智徳氏が「身体の思想と表現　―闘う身体・記号論・芸術学的可能性―」と題する研究発表を行った。続いて、空手・極真会館広島東・広島西支部のメンバーによる実技が披露された。例会参加者は約三十名。

▼平成十一年一月十一日(月)

会報第五十一号を発行。掲載記事は巻頭言に大山智徳氏の「エーテルを語るには…」、第四十六回例会報告「バレエにおける演出について(報告者・大石和久)、「身体の思想と表現」(報告者・森園敦)など。

▼平成十一年一月二十三日(日)

第四十七回例会を広島県立産業技術交流センターの会議室で開催。最初に立教大学講師の児嶋由枝氏が「聖ドンニーノの聖杯 ―中世の貴金属工芸と聖遺物信仰をめぐって―」と題する研究発表で、文書資料や様式分析などから、聖ドンニーノの聖杯の制作地・制作年代を明らかにした。続いて広島女学院大学助教授の末永航氏が、「紙上の楼閣 ―イタリア・ルネサンスの建築書古刊本と版画―」と題して、ルネサンスのイタリアにおける活版印刷本と版画という新しいメディアについての研究発表を行った。参加は四十五名。

▼平成十一年四月二十八日(水)

会報第五十二号を発行。掲載記事は、巻頭言に西原英樹氏の「山口長男先生を憶ふ」、刊行予告「芸術・未来へ ―芸術学の百年―」(記/金田晉)、第四十七回例会報告「聖ドンニーノの聖杯」(報告者・播野尚子)、「紙上の楼閣」(報告者・田中瑞香)など。

▼平成十一年五月八日(土)

第四十八回例会を呉市立美術館で開催。広島女学院大学教授・原田佳子氏による「ウイリアム・モリスとそのデザイン思想」と題した研究発表の後、呉市入船山記念公園内の「旧呉鎮守府司令長官官舎」「歴史民俗資料館」「郷土館」を見学した。参加は約五十名。その後、同市内にあるビアホールで地ビールを味わいながら懇親会を持った。

▼平成十一年六月三十日(火)

会報第五十三号を発行。掲載記事は第十三回大会の案内と第四十八回例会の報告「ウイリアム・モリスとそのデザイン思想」(報告者・玉田さゆり)「呉市入船山記念館見学記」(報告者・上野仁)など。

《平成十一年六月三十日現在、法人会員十一法人、個人会員二百二十五名(特別会員六名、一般会員百九十一名、学生会員二十八名)》

(こめかど・きみこ 広島芸術学会事務局)